

大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 東京大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))

北京・ソウル・東京 (BESETO) ダブル・ディグリー・プログラム: 国際・公共政策共同研究

【事業の概要】

本事業では、将来の東アジアのリーダーとなりうるグローバル人材を養成することを目指し、キャンパス・アジアパイロットプログラムのもと実施してきた東京大学、ソウル大学校、北京大学間での教育連携プログラムの実績をベースに、公共政策・国際関係分野における東アジア最高レベルの大学院による日中韓交流を行い、育成した学生が三カ国の国際関係改善のキーパーソンに成長し社会に貢献していくことを3大学共通の目的としている。



【交流プログラムの概要】

英語を主要言語としたプログラムを実施の上、ダブル・ディグリーの実施によって構築・共有されてきた教育基盤をもとに、参加学生の交流のほか、教員の相互派遣や職員の相互訪問によって交流を深める。ジョイント・サティフィケートの発行、3大学での共同実施科目であるジョイント・コースの設置や3大学の教員による集中講座などを企画しカリキュラムの共同開発を行うことで、これまでの取り組みに一層の共同性を持たせる試みを行う。

【本事業で養成する人材像】

公共政策や国際関係の分野において、高い問題意識やグローバルな課題に多角的な視野を持ち、その解決を図ることができる能力を獲得できる場を提供し、将来の東アジアのリーダーとなりうるグローバル人材を養成することを目的としている。

【本事業の特徴】

アジアの旗艦大学から2つのディグリーが取得できる本取組はひとつの大学では得られない付加価値の高い学修機会を学生に与え、修生生の労働市場における価値を高めるものである。また、参加対象を本公共政策大学院の学生全員としており、参加学生は日中韓3か国のみならず、他のアジア諸国を始め世界中からの留学生と交流する機会を得ることが期待できる。

【交流予定人数】

	H28	H29	H30	H31	H32
日本(J)での受入	C2 K2	C6 K5	C7 K7	C7 K5	C7 K7
中国(C)での受入	J3(+2) K6	J5(+2) K5	J6(+1) K5	J6 K5	J6 K5
韓国(K)での受入	J3(+2) C9	J7 C5	J5(+1) C5	J7(+1) C5	J6 C5

*()内は自己負担または大学負担等による交流学生数

1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【東京大学】

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))

北京-ソウル-東京(BESETO)ダブル・ディグリー・プログラム:国際・公共政策共同研究

■ 交流プログラムの実施状況



〈CAMPUS Asia Summer Program/ Field Trip 8月・長崎〉

パイロットプログラム終了後も引き続きダブルディグリーの派遣受入、交換留学の派遣受入を継続した。移行期の派遣実績は中国への派遣3(うちDD2)、韓国への派遣1(うちDD1)、受入実績は中国から7(うちDD1)、韓国から5(うちDD5)であった。

サマープログラムでは九州へのフィールドトリップを実施し、雲仙と長崎を見学し、東アジアの安全保障に関するディスカッションを行った。秋学期には3カ国の学生と職員が参加する日本文化体験のフィールドトリップで益子焼体験や足利学校の見学を行った。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

移行期の派遣実績を加算した人数は、中国への派遣3名(うち移行期3名)、韓国への派遣5名(うち移行期1名)

○ 外国人留学生の受入

移行期の受入実績を加算した人数は、中国からの受入7名(うち移行期7名)、韓国からの受入5名(うち移行期5名)



〈3カ国の学生と職員が参加したフィールドトリップ 1月・栃木県〉

H28事業開始以降の実績

	H28
日本(J)での受入	C0(+2) K0(+3)
中国(C)での受入	J0 K0(+2)
韓国(K)での受入	J4 C0(+1)

※()内は中国・韓国の奨学金による実績

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

3方向のダブル・ディグリープログラムを実施するにあたり、それぞれの修了要件を比較検討し、単位互換のルールを明確化。まずは2校間で互換性の高い科目を同定し、それぞれの大学における基準を満たしつつ、効率よく履修、修了できるような方法を開発。3校間での科目マッピング表を作成することを検討する。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

受入学生への環境整備: 東京大学の学生寮に優先的に割り当てられ、実質的に無償で提供される。JASSO奨学金その他によって奨学金を給付。東京大学の日本語教育センターによる日本語授業の受講を推奨。日本でのインターンシップの斡旋や日本文化を学ぶフィールドトリップを実施。受け入れ後の履修登録相談や学生チューターによる学生生活上の支援を提供。

日本人学生等派遣のための環境整備: 派遣前・派遣中・派遣後にわたり、直接またはメールにてきめ細かな履修登録相談を実施。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

公共政策大学院専門職学位課程に在籍する留学生の割合はパイロットプログラム開始前の11.5%から2017年4月現在42.6%に増加。英語で開講する科目は2017年4月全体の45%。大学院の国際連携委員会には国際公募により雇用了2名の外国人教員が在籍し、会議等は英語で行っている。ホームページは日英バイリンガルとなっている。

■ グッドプラクティス等

3カ国の財政支援に関する条件を文書にて確認し、Joint Academic Board MeetingにてMOUを締結することを確認。3方向のダブル・ディグリーを実施。3カ国による共同教育の試みとしてCAMPUS Asia Pilot Joint Courseの実施を決定。

*()内は自己負担または大学負担等による交流学生数

2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【事業の名称】北京-ソウル-東京(BESETO)ダブル・ディグリー・プログラム:国際・公共政策共同研究(選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))

■ 交流プログラムの実施状況



〈CAMPUS Asia Pilot Joint Course/ Field Trip 7月・沖縄〉

ダブルディグリーの派遣受入、交換留学の派遣受入を継続した。派遣実績は中国への派遣7(うちDD2)、韓国への派遣3(うちDD0)、受入実績は中国から7(うちDD7)、韓国から4(うちDD3)であった。

春学期開講のCAMPUS Asia Pilot Joint Courseでは北京大学、ソウル大学からも講師を招聘しオムニバス形式で講義やディスカッションを行った。また沖縄へのフィールドトリップを実施し、沖縄の歴史、安全保障、経済発展に関する施設訪問、セミナー、ディスカッションを行った。

秋学期には3カ国の学生と職員が参加し長野へのフィールドトリップを実施。東アジアの安全保障に関するディスカッションと日本文化体験(温泉、岩松院の北斎画鑑賞、地獄谷野猿公苑見学、おやき作り)を行った。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

中国への派遣7名(EX5名、DD2名)
韓国への派遣3名(EX3名、DD0名)

○ 外国人留学生の受入

中国からの受入7名(EX0名、DD7名)
韓国からの受入4名(EX1名、DD3名)

	H29
日本(J)での受入	C7 K4
中国(C)での受入	J7 K4
韓国(K)での受入	J3 C6



〈日本文化体験フィールドトリップでのグループディスカッション 12月・長野〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

三大学の関係教職員が集まるキャンパス・アジア運営会議にてプログラムの共同性を高めるための工夫について議論し、平成29年度は東京大学で「Campus Asia Pilot Joint Course」を試験的に実施した。ソウル大学校及び北京大学から教員を招聘し東京大学教員と共同で授業を実施した。またフィールドトリップには東京大学の教職員だけでなく北京大学の教員の参加も実現し、協力の強化、本事業の充実を図ることが出来た。平成30年度より引き続き本大学院がイニシアティブをとり、パートナー校の先駆けとして実施する三大学の共同科目である「CAMPUS Asia Joint Course」の設置について具体的に検討した。3大学共通の必修として各大学にて同名の科目を設置し履修できるよう、数年かけてカリキュラムの整備を行うことで、プログラムとしての共同性を高めていくこととなった。また、ソウル大学校と北京大学間のダブル・ディグリー開始に伴って三方向のダブル・ディグリーが可能となり、プログラムの発展に向けて前進した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

受入学生への環境整備: 大学の学生寮に優先的に割り当てられ、実質的に無償で提供される。JASSO奨学金その他によって奨学金を給付。東京大学の日本語教育センターによる日本語授業の受講を推奨。日本でのインターンシップの斡旋や日本文化を学ぶフィールドトリップを実施。受入後の履修登録相談や学生チューターによる学生生活上の支援を提供。

日本人学生等派遣のための環境整備: 派遣前・派遣中・派遣後にわたり、直接またはメールにてきめ細かな履修登録相談を実施。また、留学先渡航のための往復航空券を提供。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

公共政策大学院専門職学位課程に在籍する留学生の割合はパイロットプログラム開始前の11.5%から2018年4月現在48%、また英語で開講する科目は全体の46%と年々増加傾向にある。大学院の国際連携委員会には国際公募により雇用した外国人教員が在籍し、会議等は英語で行っている。ホームページは日英バイリンガルとなっている。

■ グッドプラクティス等

5月にソウルでの運営会議に合わせ、BESETO Intellectual Dialogueと題し、3大学の院長が東アジアにおける学術連携のあり方についてパネルディスカッションを行った。学生の交流と同時に研究の交流も深めるためのプラットフォームづくりについての提案があり、キャンパスアジアプログラムで培った教員同士の連携を研究協力にまで波及させる可能性が出てきた。